

1-3 年齢 (2018年3月1日現在)

上司向け調査対象者の年齢層は、下は37歳から上は57歳に渡っており、平均年齢は47.4歳（標準偏差4.95）であった（表1-3-1と図1-3-1参照）。一方、部下向け調査対象者の年齢層は、下は19歳から上は60歳と、きわめて広い年齢幅にまたがっており、平均年齢は37.0歳（標準偏差8.69）であった（表1-3-2と図1-3-2参照）。

課長級層と部下層を比べてみると、平均年齢では10歳程度の開きがあるものの、課長級と年齢があまり変わらない一般従業員も、相当数いることがわかる。昨今の人事管理施策では、年功制を基盤とした日本的雇用慣行が影を潜め、年齢を基準とした処遇や配置を行うことが難しくなってきた。そのため、旧来の年齢規範に根ざした処遇や仕事の割当ではなく、人物本位の処遇と配置が求められることになる。また、自分より年齢や勤続年数が高い部下を抱える課長級層も多くなってきた。したがって、管理職の管理行動にもさまざまな工夫が必要となるだろう。

表1-3-1
上司向け調査

	人数	%
35～39歳	9	5.0
40～44歳	48	26.8
45～49歳	58	32.4
50～54歳	50	27.9
55～60歳	14	7.8
計	179	100

表1-3-2
部下向け調査

	人数	%
19～24歳	28	4.1
25～29歳	114	16.9
30～34歳	155	22.9
35～39歳	149	22.0
40～44歳	88	13.0
45～49歳	69	10.2
50～54歳	50	7.4
55～60歳	23	3.4
計	676	100

図1-3-1

上司向け調査対象者年齢内訳

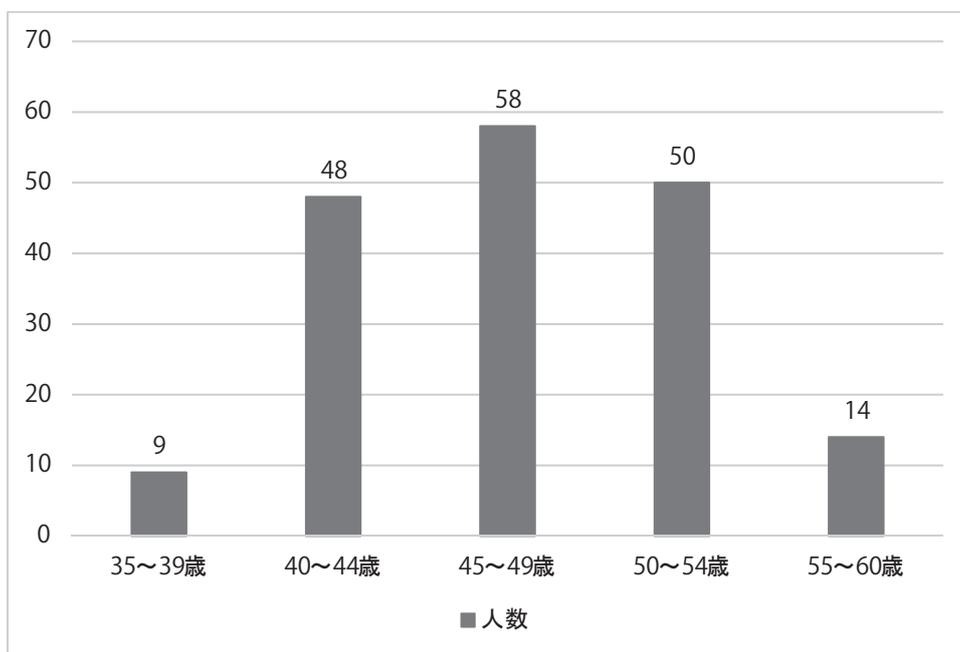


図1-3-2

部下向け調査対象者年齢内訳

